

## 丸亀の少子高齢化

丸亀市の<sup>※</sup>合計特殊出生率は1.70で、県内第2位です。

しかし、10年前と比べると人口は増加しているものの、年少人口は減少し、老年人口は増加しています(グラフ1)。

また、児童・生徒数でも小学生で500人弱、中学生で850人弱減少しています。

丸亀市でも少子高齢化は確実に進んでいます。

※一人の女性が一生の間に産む子どもの数。人口を維持するためには2.09必要とされます。



## データに見る少子化と男女共同参画

### 合計特殊出生率(TFR)から探る少子化対策

#### 女性の労働力率とTFR

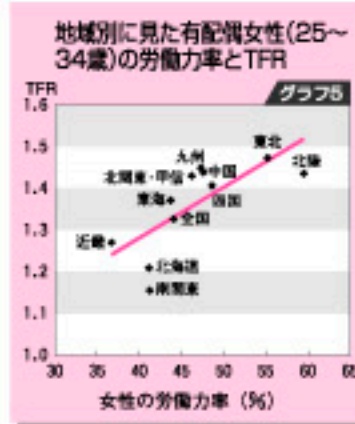
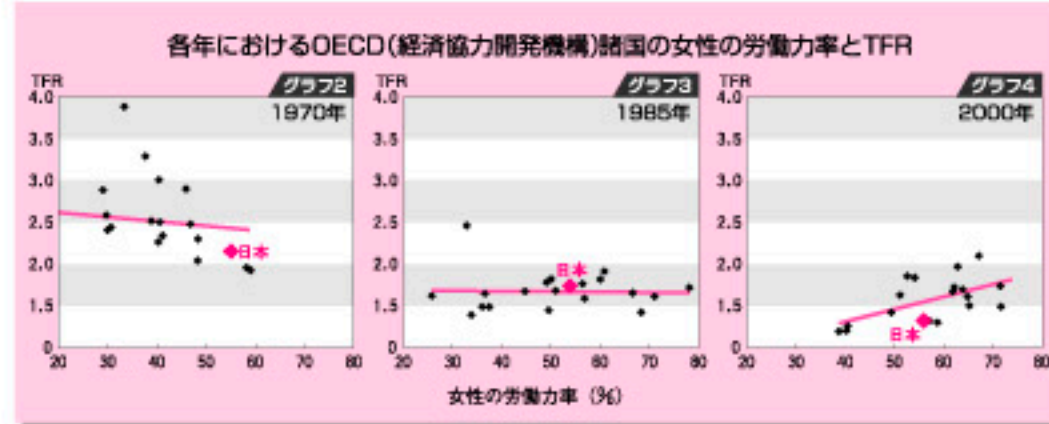
OECD諸国において、70年代には負の関係にあった女性の労働力率と出生率ですが、80年代半ばを境に正の関係に転じました。

現在では女性の労働力率が高いほど出生率が高く、女性の社会進出が進むと出生率が下がるというのは昔のことといえます(グ

ラフ2~4)。

日本は、女性の労働力率も出生率も低いグループです。

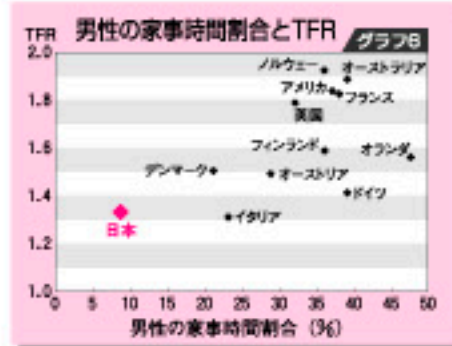
また、国内の地域ごとのデータを見ても、女性の労働力率の高い地域ほど出生率が高くなっています(グラフ5)。



#### 男性の家事時間割合とTFR

男性の家事時間割合が高いほど、出生率も高くなっています(グラフ6)。

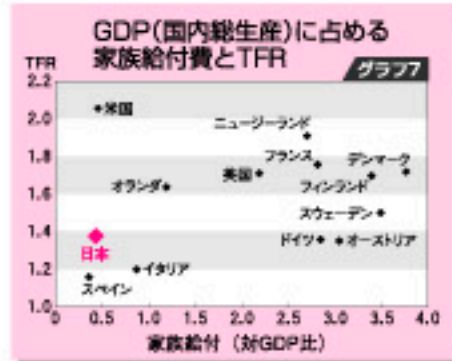
内閣府の意識調査によると、男性の家事参加への意識は変わりつつあるものの、女性の家事負担率がかなり高いのが実態です。仕事と家庭の両立支援は、女性だけでなく、男性も視野に入れた対策にしていかなければなりません。



#### GDPに占める家族給付費とTFR

家族政策に力を入れている国ほど出生率が高くなっています(グラフ7)。

「仕事と子育ての両立支援」「子育ての経済支援」の充実が急がれます。



少子化には様々な要因が考えられますが、まずは、私たちのまちの現状を調べて分析し、丸亀市の少子化の問題点を知ることが大切ではないでしょうか。似たような人口規模の自治体でも、出生率の上がり続けているところと下がり続けているところがあるようです。丸亀市がどっちを目指すべきかは明白です。

データからも明らかのように、少子化への対応を考えると、男女共同参画の視点は欠かすことができない重要なポイントです。

新しい丸亀市でも男女共同参画社会づくりを積極的に進めることで、少子化傾向を一掃したいものです。

TFRに関するグラフの出所:「少子化と男女共同参画に関する専門調査会」の報告書「少子化と男女共同参画」より



## ゆめネットワークセミナー

## 学習を活動に生かして

ゆめネットワークでは、今年度も様々な学習会を企画、開催しました。講演会やセミナーに参加して学ぶだけでなく、企画や運営にかかわることで、ゆめネットワークはエンパワー(力をつけること)しています。それぞれの市民グループはその成果を生かし、これからも男女共同参画の視点を忘れずに活動します。

### 多文化共生の子育て(講師:アンジー・ダノイ・佐竹さん、佐竹眞明さん)

講師に迎えたのは、日本人とフィリピン人のご夫婦。3人の子育てを育んでいるお二人の体験談からは、気づかされるものがたくさんありました。

丸亀に住む外国人には日本語や英語を話せない人が多く、日常生活だけでもかなり苦労されているようです。子育てに関する情報ははじめ、あらゆる生活情報は、多言語で提供することが求められています。

### 記念講演(講師:宝井琴桜さん)

琴桜さんは、ある講演会場で、一人の男性から次のように頼られました。「母の介護を妻に任せていたが、妻は過労で倒れ先立った。自分が介護するようになって、初めて妻の苦労が分かった。もっと早く分かっていれば死なせずにすんだ。全国の男性に、妻の元気なうちに妻の苦労を理解し、共に分かち合うように伝えてください」と。

この話を身近な男性にぜひ伝えなくては、と思いました。



### パネルディスカッション

行政、市民、企業のそれぞれの立場から男女共同参画社会づくりを考えました。

「まず家庭の中から、女も生き生き、男も生き生きの生活を自然体でやっていこうと思いました」「男女共同参画社会づくりにかかわり、自分らしく生き生きと生活したいと考えます」。参加者の感想からは、気づいて変わろうとする意識が伝わってきました。学びを生かし、行動につなげていく大勢の市民の力が、丸亀市の男女共同参画のまちづくりを支え、進めることでしょう。



## 丸亀市 男女共同参画都市宣言 5周年記念事業

### ワークショップ①:子育て支援

子育てで悩まない人はいません。自分だけでなく、共通の問題なのだみんなで声を上げましょう。地域全体で考えれば、母親だけでなく、子育て中の家庭、子育てを卒業した人たちもこれからやるべきことはいっぱいあると思います。シニアも男性もみんなの協力を得て、地域に「つどいの広場」を設け、情報交換・交流の場をつくり、父親も一緒に子育てできる環境を生み出しましょう!

当事者の積極的な発言を基に、市民と行政が手をつないで、子育ての現場に必要な支援を考えていきます。

### ワークショップ②:新市へ向けて

合併を目前に、1市2町の住民が集い、男女共同参画のまちづくりについて意見交換することで、新市がスタートしたら男女共同参画に取り組む仲間が増えるという感覚を持ってました。

「今日から主人じゃなくて夫と言います」「こういう話をもっと早く聞きたかった」「男性や若い人に聞いてほしい」と声をかけられ、意識変革につながる学習の必要性を実感できました。参加者が身近な話を通して男女共同参画を語り合うことで、自分の問題だと認識し、意識変革への第一歩にしてもらえたようです。

合併後の新丸亀市でも、男女共同参画を進めるのは市民だと確信しました。

